

オアシススケッチ

～まちの話題～

矢口地区

盛大に虫供養開かれる

阿久比地区への引き渡しも無事終わる

九月二十三日、矢口地区の矢口公民館で県指定無形民俗文化財阿久比谷虫供養が行われました。

虫供養は農民が田畑の虫を供養するために念仏を唱えたことが始まりで、「阿久比谷虫供養縁起記」によると、平安時代から続くことされ、現在では町内十三地区の持ち回りで行われています。

当日供養場には大道場と八つの小



町指定文化財の掛け軸を前に百万遍を唱和する各地区の同行



砂山を踏む幼児

屋が設けられました。その中には町指定文化財の十二幅の掛け軸などが飾られ、鉦や太鼓の音が響いていました。

大道場では午後一時ごろから、各地区の同行約三十人が二時間に渡り百万遍（念仏）を唱え、虫供養を行いました。

大塔婆の前に敷かれた砂山を乳幼児に素足で踏ませると、かんの虫封じや、健やかに成長できるという言い伝えがあり、多くの家族連れが見られました。

夕方、供養場の小屋などが取り壊され、来年の当番に当たる阿久比地区への引き渡しが行われました。

英比小花壇に優良賞



花壇を囲む英比小学校栽培委員会の児童

フラワー・ブラボー・コンクール（愛知県や県教育委員会などの主催）に参加した英比小学校花壇が優良賞に選ばれました。コンクールには県内の小、中学校など140校が参加し、花壇のデザインや花の育ち具合などが審査の対象となりました。

花壇の中央には町のマスコットキャラクター「アグピー」をデザインし、栽培委員会の5、6年生の児童25人が花を育てました。「夏休みに水かけをするのが大変でした。きれいに花が咲き、賞が取れてうれしいです」と児童たちは笑顔で話していました。

今までの経験を生かしたい



町長にボランティアへの意欲を語る児島さん

9月27日、国際協力機構（JICA）のシニア海外ボランティアとして10月6日から2年間、パキスタンに派遣される児島隆徳さん（福住園高台）が町長室へ出発の報告に訪れました。

児島さんは大同特殊鋼を定年退職し、「第2の人生を納得できるようにスタートしたかった」とボランティアへの参加動機を語り、「今まで培った技術と経験を生かして人づくり、国づくりに貢献したい」と抱負を話していました。